

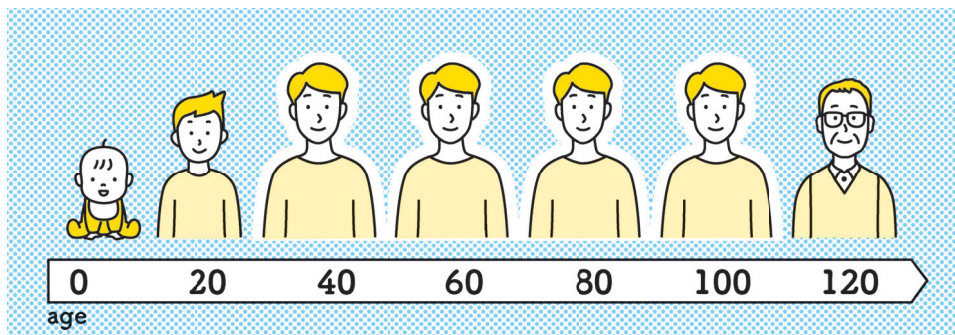
人々が、 「老いる・老いない」を 選択できるようになる

「死ぬ」ことは避けられないとして、それを迎えるプロセスを選択できるようになる。

これまで人間の身体は少しずつ老いていくものであったが、老化を防ぐ技術の進歩により、

最期を迎えるまでの老いのスピードや、それを自分自身がどう受け入れていくかなど、

「身体の老い方」を選択・設計できるようになる。



変化のポイント
(これまで)

老化は防止したいけど、
制御できないもの

変化のポイント
(これから)

老化は自身で設計するもの

技術的・
社会的な課題
(研究課題を含む)

- 「老いる」ということの価値化が必要。
- 人口爆発・人口減少への影響を検証することが必要。

大学に期待
される役割
(研究以外)

- 「老い」「死」に関する個人の認識を深められる教育を全世代的に行う。
- 若年層だけでなく、大人が学ぶ場としての大学の価値を高める必要がある。